

板倉の小さな家

# さんたる

震災復興で生まれた板倉のプロトタイプが各地に広がる

## 三陸さんたる

東日本大震災の仮設住宅が板倉構法で福島県に200戸余り建設され、被災者に安らぎを与える場として、また地域の職人による地域の木材を活用した復興の取り組みとして高く評価されました。さんたるはこの経験と実績をもとに板倉の復興住宅モデルとして開発したものです。そのモデルハウスを宮城県南三陸町に建設し地域の資源を活用した復興住宅づくりが始まっています。また、このさんたるモデルは、被災地ばかりでなく、広く日本各地で普遍的な小住宅のモデルとして注目され、その建設の取り組みも進んでいます。今回はそのさんたるモデルの家づくりを特集してお伝えします。



三陸さんたる正面外観

2012年竣工



三陸さんたる正面外観



三陸さんたる建て方

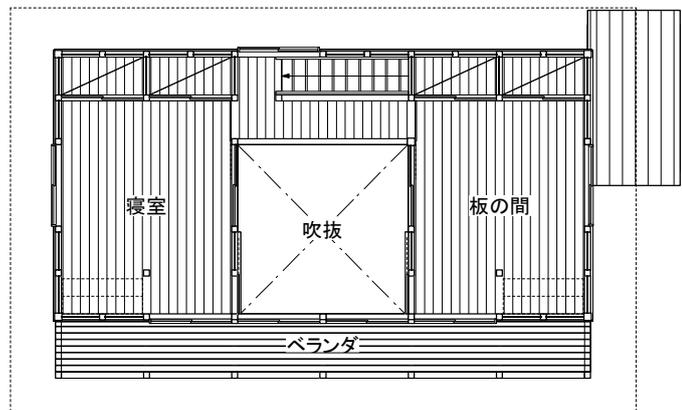
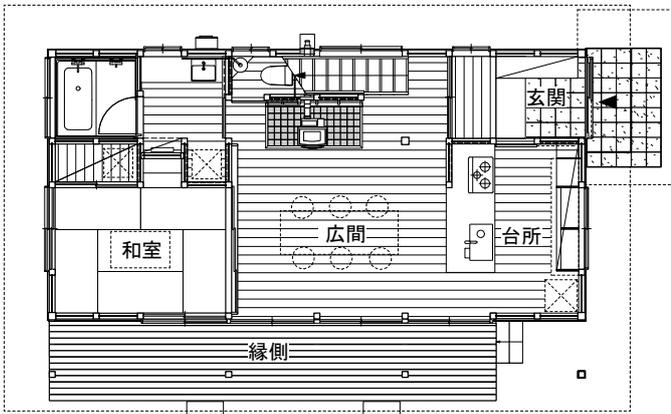
撮影 / 齋藤 さだむ

さんは杉の音読み  
 たらはフィンランド語の talo で家という意味  
 つまりさんたらは杉の家という意味です  
 杉は日本産の木、そして日本に豊富な資源  
 これを大切に使うことで  
 資源を絶やさず、いつまでも暮らすことができます  
 石油や原発に依存することなく  
 森林資源を生かす暮らし方は、日本人の優れた知恵です  
 さんたらは今、杉を生かす暮らしの提案  
 未来に生きる杉の家です

さんたらは板倉の家です  
 板倉は日本古来の神社や穀物倉庫を造ってきた  
 優れた木造建築です

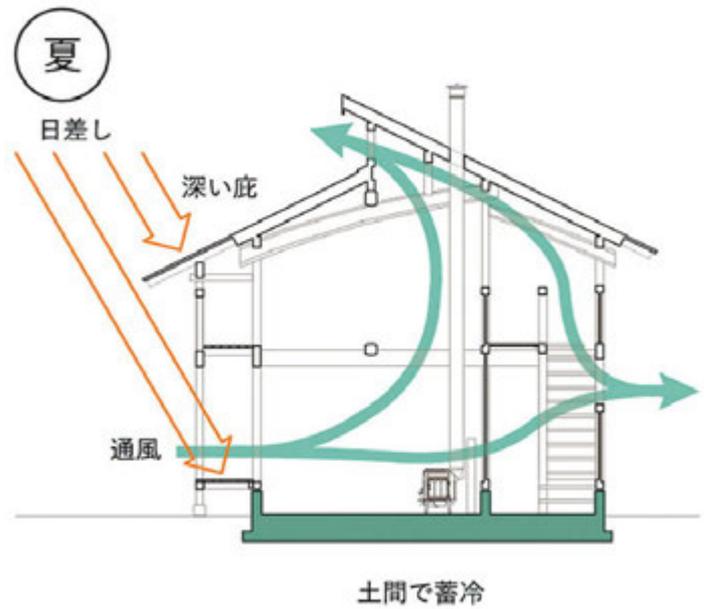
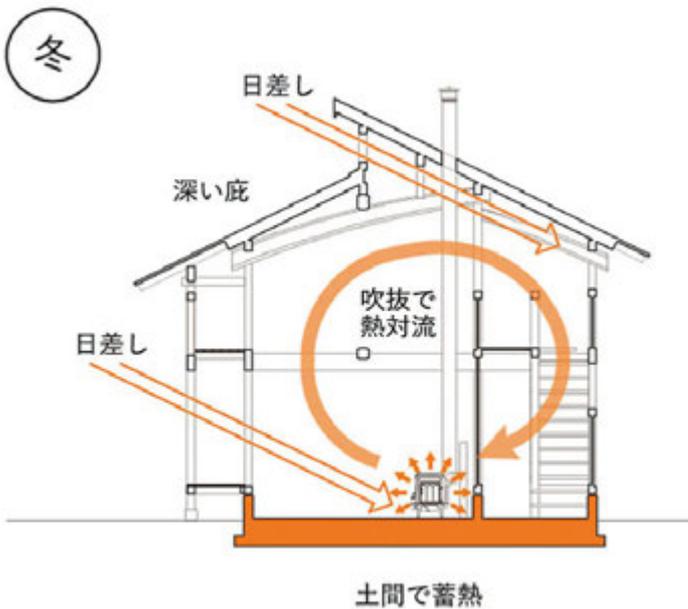
板倉の家はそれを応用して  
 スギを生かす構法として技術開発されたものです  
 スギを柱や梁などの構造の他に、  
 床や壁や屋根にスギの厚板を用いることで、  
 堅牢で長持ちする家、燃えにくい家  
 湿気かこもらず、結露しない家  
 冬温かく夏涼しい家をつくることができます  
 スギの無垢材だけで家をつくることのできるので  
 シックハウスの心配もありません  
 有害な廃棄物も出しません

建材に向かない木や、  
 製材と加工の段階で生ずる木端を有効に活用  
 薪ストーブと薪ボイラーで石油を節約します  
 薪の熱は遠赤外線、柔らかく部屋と水を温めます



さんたらプラン。中央に薪ストーブのある広間。東側には台所、西側に座敷、北側に水回り、南側に縁側。

吹き抜けを挟んで両側に2寝室。南側全面にベランダ。

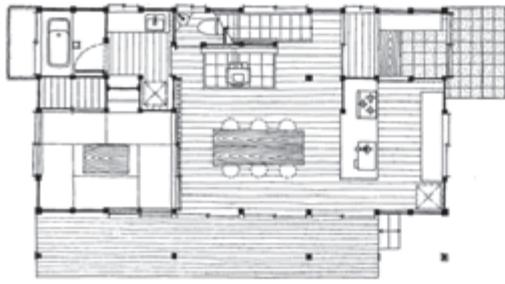


冬は南の大きな開口部から日差しをとり入れる。暖房は薪ストーブまたはペレットストーブで、吹き抜けを介して家全体を暖める。

深い庇で日差しを遮り、南北の窓と越屋根で通風をはかる

# 若林さんたる

仙台市の若林区は東日本大震災の津波で被害を受けた。荒浜に住んでいた建て主の家も流され、命は助かったが家と財産を失った。元の地域は住宅を建てることはできなくなり、新たに宅地が造成されてその一角にこの家は再建された。建て主は南三陸町にできた板倉の復興モデル住宅さんたるを見学して、そのモデルプランさんたるしを気に入ってそのまま建て、板倉の復興住宅の第一号となった。



## 「若林さんたる」DATA

- 敷地面積 約70坪
- 延床面積 約三坪
- 構造 板倉構法
- 外部仕上げ 日本瓦葺き（いぶし瓦）
- 屋根 ガリバリウム鋼板葺・瓦葺
- 庇 大和張り、大壁焼スギ板張り
- 外壁 木製建具（複層ガラス）アルミサッシ
- 外部建具
- 内部仕上げ スギ本実板 厚1寸
- 床 スギ本実板あらわし、漆喰塗り壁仕上げ
- 壁 漆喰塗り壁仕上げ
- 施工 クレア平塚
- 木材 那賀川すぎ共販協同組合
- 設計 宮城県産材
- 里山建築研究所

広縁、二階はベランダ



二階はロフト風寝室



台所木部は拭き漆仕上げ



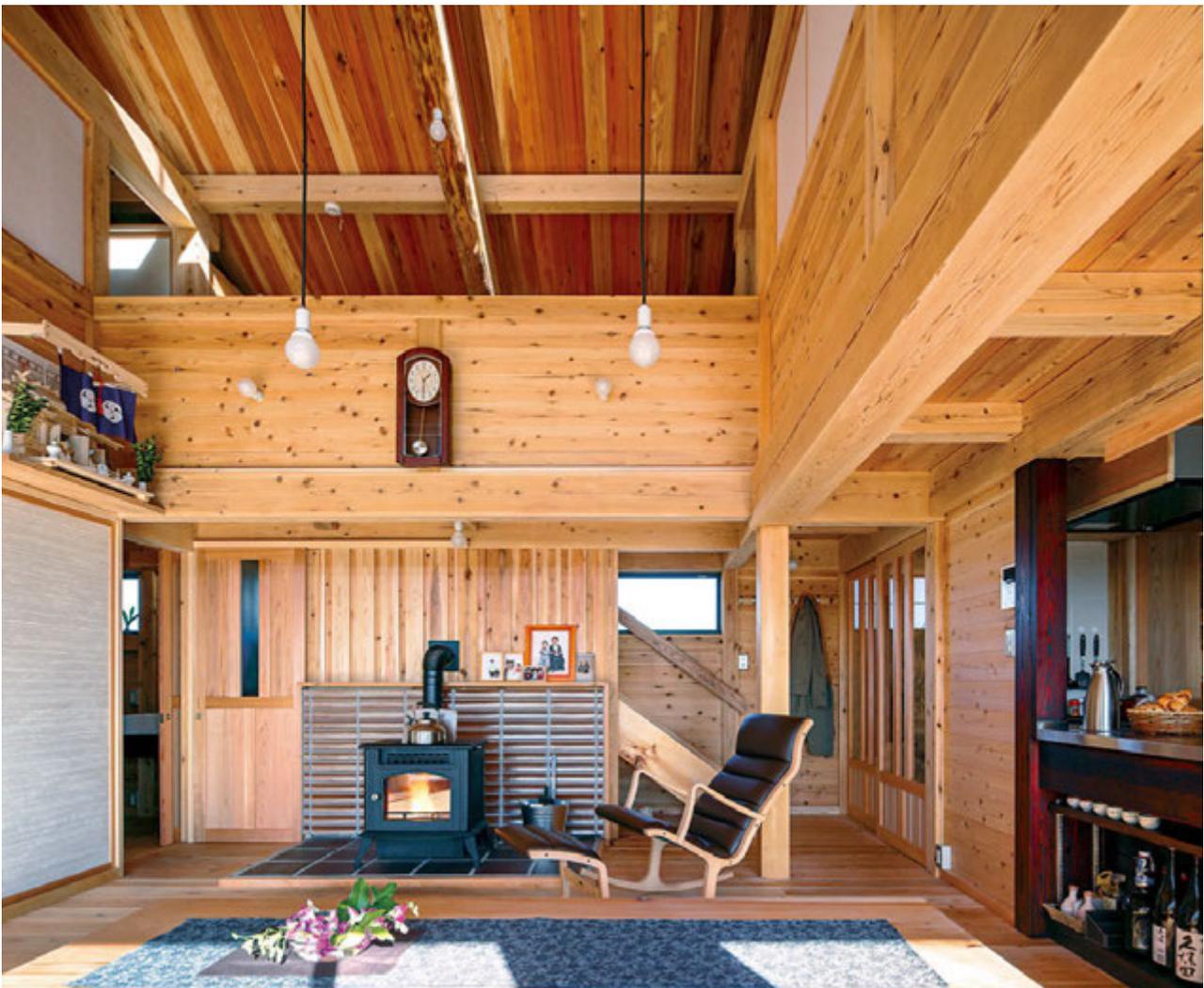
玄関から広間を見る。敷台と框はケヤキの拭き漆仕上げ。

撮影 / 齋藤 さだむ



仙台市東部、津波被害を受けた地域の近くに造成された復興住宅地の一角に建つ。

2014年竣工



吹き抜けの広間。中心にペレットストーブで家全体が温まる。

撮影／齋藤 さだむ

座敷から掘りこたつの茶の間を見る。左奥に神棚下に茶筆筒。

歌津の高台造成地の一角に建つ



約3ヶ月間の天然乾燥

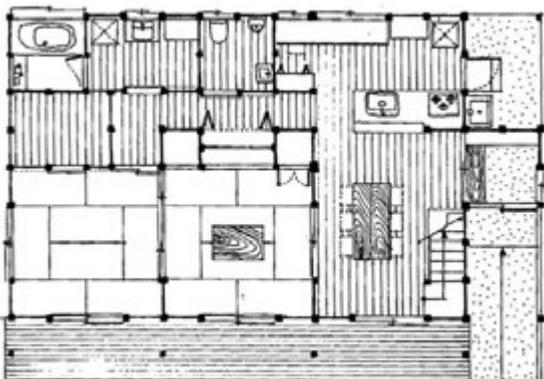
木材は、親戚のスギ林（樹齢50～60年）から間伐。

## 歌津さんたる

南三陸町は東日本大震災で沿岸部の町と集落の大半を失った。復興の町づくりは津波の及ばない高台に、宅地を造成してつくられている。この家はその造成地のひとつである柘沢団地の一角にたつ。南三陸町は水産業の町であるが、背後の森林資源にも恵まれている。この木材を活用した震災復興の家づくりを目指して「南三陸木の家づくり互助会」が地元の工務店、製材所と住民を中心に専門家や支援者が加わって結成された。山で木を伐り製材加工、施工を一貫した家づくりを互助的に行なう仕組みである。未利用の荒廃した人工林を間伐してその木材を安価に活用するとともに、森林整備も進めて地域環境の保全を図る取り組みでもある。

歌津の家はこの互助会の家づくりで竣工した第一号の住宅である。建て主の親戚の山のスギとアカマツを切り出して、製材乾燥して構造材を全て用意し、板材の半分もそれで賄うことができた。建坪は梁間4間桁行6間、間取りは吹き抜けの広間を東側にとり、西側に平屋の座敷を加えた。2階は学習塾として利用する。山で木を選ぶところから竣工までの全ての工程に立ち会い、木材の乾燥や運搬には自ら汗を流した建て主の苦勞は並大抵ではないが、それだけ家づくりの喜びにはひとしおのものがある。

「歌津さんたる」DATA	
延床面積	三八坪
構法	板倉構法
外部仕上げ	瓦ぶき
屋根	スギ本実板葺張り
外壁	アルミサッシュ（玄関のみ木製建具）
外部建具	
内部仕上げ	スギ本実板 厚1寸
床	スギ本実板あらし
壁	木製建具
内部建具	渡辺建設
施工	自伐
木材	南三陸木の家づくり互助会 那賀川すぎ共販協同組合 里山建築研究所
設計	





正面外観

2016年竣工



2階の教室



一階食堂から吹き抜けの2階と小屋裏を見上げる。



台所から広間、座敷を望む。キッチンカウンターは拭き漆仕上げ。



縁側と広間の間は雨戸、ガラス戸、障子が引き込まれて解放される。

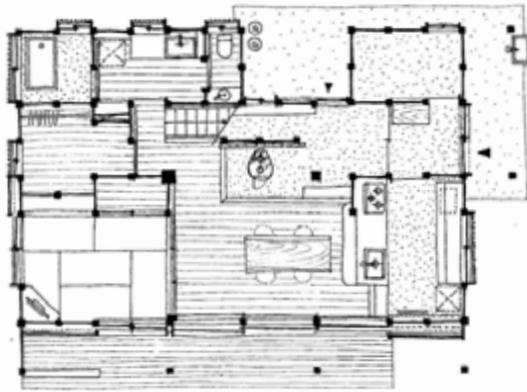
## 水戸さんたる

水戸の田園風景が残る地区、畑と屋敷林を望む見晴らしのいい敷地に建つ、家族4人と犬1匹で暮らす住宅。さんたるしプランを気に入り、そこへ北側に1間の下屋をつけた間取りだ。古民家のマツの古材を梁組の一部に再利用し、手刻みで建てられた。建主の思いが一番強くこめられた場所は、家族みんなが集まる吹き抜けのある広間。そこは、薪ストーブを囲む家族団らんの場。玄関から台所そして広間の一部を土間でつなぎ、床上の空間と目線の高さを揃えた。階段下は「籠り場」である図書コーナー。

広間の南側3間の開口は障子、ガラス戸、網戸、雨戸とも引き込め、縁側と一体となる。晴れた日の縁側は近所の人や、子供たちの友達があつまる場となりつつあり、暮らしていく中で様々な出会いを生みそうだ。マツ梁と大黒柱のケヤキの古材、古道具、そして昭和の頃によくみられた雰囲気のある照明や、外流しも相まって、すこし懐かしく落ち着きのある印象の住まいとなった。

### 「水戸さんたる」DATA

延床面積	三七坪
構造	板倉構法
外部仕上げ	日本瓦葺（いぶし瓦）、ガルバリウム鋼板横葺き
屋根	大壁杉堅羽目板二重張り
外壁	アルミサッシュ（複層ガラス）、木製建具
内部仕上げ	スギ本美板 厚1寸
床	スギ本美板あらわし
壁	木製建具
内部建具	大崎材木店
施工	大崎材木店・那賀川すぎ共販協同組合
木材	里山建築研究所
設計	



二階寝室 小屋裏の登り梁は松の古材を再利用。



二階吹き抜け。高窓から採光と換気を図る。



水戸市郊外の農村地帯の一角に建つ。南側外観 台所、広間、座敷まで建具はすべて引き込まれ縁側を挟んで庭に開放される。

2016年竣工



玄関をはいると広間まで続く土間。広間奥に薪ストーブ 裏側の階段下は小さな図書コーナー。



吹き抜けの広間。奥から台所と広縁を望む



筑波山麓の街。歴史的な街並みを残す北条の一角に建つ。南側外観 外壁は縦張目板張り

2016年竣工

「北条さんたる」DATA

延床面積 板倉構法

外部仕上げ ガルバリウム鋼板横置き

屋根 大壁杉葺羽目板二重張り

外壁 アルミサッシュ（玄関のみ木製建具）

内部仕上げ スギ本美板 厚1寸

床 スギ本美板あらし

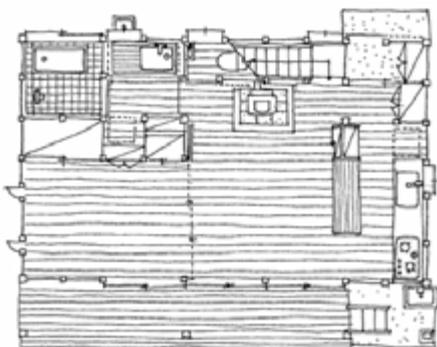
壁 木製建具・古建具

内部建具 大山建築

施工 中工木材

木材 里山建築研究所

設計



## 北条さんたる

敷地は、旧市街地の一角で、神社に向かう坂道の途中にある。町家の区割りで、幅が狭く細長い。南北で上下2段の階段状に分かれていた。南に扇状に広がっているため、間口がやや広くなっている下段の南斜面に、3×5間を配置、北側の上段は駐車スペースとした。住まいを新築するなら、「さんたるMで。」と建主ご夫婦の要望は、最初から端的で明快。少々クセのあるユニークな敷地と、ご家族のライフスタイルに合わせ、さんたるのプランを大きく改変した点は、次の3つ。

- ・北側に玄関を設ける
  - ・二階東側に3坪の部屋を作る
  - ・全て板の間にする
- 入口が北側になったことで、南開口部は、拡張された縁側、その先に繋がる庭におおらかに開くことができた。内部の杉板張りの板の間も、伸びやかな空間となった。



二階階段室から吹き抜けとベランダを見る。地棟と登り梁に支えられた小屋裏から光が差し込む。内部建具には古建具を再利用。



吹き抜けの食堂から台所を望む。



台所から吹き抜けの食堂、奥の居間を望む。  
内部建具は古建具を再利用。



食堂から広縁を望む



吹き抜けの二階から食堂を見下ろす。広縁を通して暖かい冬の日差しが差し込む。

## 筑波山麓さんたる

筑波山の麓、江戸時代から続く参詣道に沿って、急な傾斜地に石積みされた町並みの一画の敷地。建主は、ここに建つ古家を買求め、終の棲家として建て替えた。

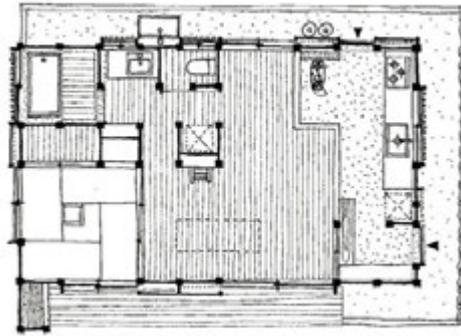
周辺には筑波嶺から流れる男女川、季節によつて様々な木々や草花が芽吹く。季節の移ろいをたのしみ、筑波山麓の自然をとり入れた暮らしをするための小さな板倉の住宅だ。規模は3間×5間にロフトがついた、さんたるSタイプ。敷地は日当たりがよく、展望もいい。冬の晴れた日は縁側から富士山が見える。

風通しがよく模様替えを楽しみたい、というのが建主の要望。なるべく仕切らず、南北、東西に風道がある、シンプルな間取りとなった。訪れる度に、少しずつ家具の配置が変わり、季節ごとに居場所を移ろいながら暮らしている。一緒に暮らす3匹の猫たちはロフトと梁上がお気に入りだ。

居間には織機が置かれ、土間と下屋の外流しで草木染をたのしむ。寝室と兼用の四畳半の茶室を構えた。茶道を教えられるよう、炉をきり、縁側には水屋を設けた。炉に必要な灰は、薪ストーブで出たものをふるいにかけて、色を加え使用している。譲り受けた古建具の欄間には筑波山の文様が描かれており、新しい茶室に趣を加えている。



南側正面。石垣で築かれた段上の敷地。



2015年竣工

「筑波山麓さんたる」DATA

延床面積	15坪
構法	板倉構法
外部仕上げ	
屋根	日本瓦葺き
外壁	大壁 スギ押縁下見板張り
外部建具	アルミサッシ(複層ガラス)
内部仕上げ	
床	スギ本実板 厚1寸
十間	瓦管材入りセメント研ぎ出し仕上げ
壁	スギ本実板あらわし
内部建具	木製建具、古建具
施工	田宮建設
木材	佐川木材
設計	里山建築研究所



茶室の中央には、炉がきられている。奥の窓の建具は、古民家の建具を再利用。



広間から奥の茶室をのぞむ



筑波山神社の参詣道である「つくば道」の歴史的街並みの一画に建つ。



広間から土間・台所をのぞむ



千葉市郊外の農村風景の残る住宅地の一角にたつ。外壁は焼スギ板張り。庭は雑木林風。

2016年竣工

## 千葉さんたる

まだ農村風景が残る千葉市郊外の住宅地の一角に建つ。ここには両親が建てた築50年の住まいがあったが、定年退職を機に、終の棲家として新しく建て替えることとなった。

さんたるMタイプを基本とし、建坪は3間×5間の15坪に南側に玄関が約半坪、間取りは居間を中心に東側に台所、西側に座敷、2階は居間を吹抜けとしてその両側に書庫と書斎を設け、延べ26・5坪の住宅である。元の家を記憶をどこかに残したいという建主の希望には、古建具を再利用したほか、小屋組のマツ梁を板に挽いて、玄関の式台と座敷の床框して大工が甍らせてくれた。



多くの蔵書やレコード盤をどう収納するか、建主自らミリ単位で検討を重ねた書斎と書庫の書棚には、びたりと全てがおさまり、蔵書に囲まれる読書と音楽を存分に楽しめる書斎は、一番のお気に入りの場所となった。

屋根は瓦葺き、外壁には焼スギを張り、緑側と造園家のつくった雑木林の庭や小屋とともに、まるで前からそうであったかのように風景にすっととけ込んでいる。これからの季節と時間の変化が楽しみだ。

### 「千葉さんたる」DATA

延床面積	二二・五坪
構造	板倉構法
外部仕上げ	瓦葺き（いぶし）
屋根	焼スギ本実板張り
外壁	アルミサッシ
外部建具	（玄関のみ木製建具）
内部仕上げ	スギ本実板 厚1寸
床	スギ本実板あらし
壁	木製建具
内部建具	森の恵
施工	中千木材
木材	里山建築研究所
設計	



広間吹き抜け。左側に玄関、台所。右は座敷。



二階書斎。中央に机。周りは書棚に囲まれている。



広間中央に薪ストーブ。家全体を暖める。

撮影／齋藤 さだむ

新発売 四畳タイプ

# 板倉の小屋キット



企画・販売  
(一社) 日本板倉建築協会  
電話 029-8933346  
info@itakurakyokai.or.jp

庭先の小さなギャラリー 愛知県豊橋市

撮影/ 齋藤 さだむ



さんたろ 編集・発行 株式会社里山建築研究所  
茨城県つくば市北条 184  
電話 029-867-1086  
メール sal@satoyama-archi.co.jp